

認定特定非営利活動法人  
ICA文化事業協会

# 事業報告書

## Activity Report

2021年7月～2022年6月



 **ICA Japan**  
The Institute of Cultural Affairs

# 経団連自然保護基金

## インド・ビハール州学校植林事業

1. 子供への環境教育
2. 植林活動と苗木の保護
3. 女性に手芸製作指導（貧困削減）
4. 環境教育センターの修復とフェンスの設置



事業地ビハール州は2019年4月より経団連自然保護基金の支援で環境教育と植林活動を開始し、2022年3月に3年間の事業活動を終了しました。3年間の活動で、教育の効果や住民意識の変化が見られ、最も教育水準の低いマデプラ郡では、幼児の教育に全く関心のなかった親の意識をも変え、幼児と大人と一緒に植林活動を行うようになりました。

幼児の環境教育は、地域の安全と環境保護に役立ち、次世代の若者の育成にも繋がりました。



先生と環境教育をする子供たち



学校植林の実施は子供達に自然への畏敬、  
樹木への関心を高めました。

インド・ビハール州の学校植林：経団連自然保護基金支援

# インド・ビハール州環境教育センターの効果的利用



水田の種についての講義を受けている村人たち。地区行政会議、農業技術研修なども環境教育センターで行われています。カーストの階級に関係なく誰もが参加できるようになりました。これは環境教育センターが効果的に利用されている一例となっています。



環境教育センターでは、女性グループの自立を促す研修として、手芸教室を開いています。写真は、ジュート（麻）で製品を作る女性たち。彼女たちの作った手芸品は家計のための収入源となり、必要な食料、教育費、医療費などに充てられます。



# ICAジャパンが所有する インドの環境教育センター、使い方を考えよう



ロータ村 (Rota)



ギイドラヒ村 (Gidrahi)



コルラヒ村 (Korlahi)



ラニパティ村 (Ranipatti)



ジャムハ村 (Jamha)



スカサン村 (Sukhasan)



チャルバルクルワ村 (Charbarkurbi)



プネ市 (Pune)

# インターンシップ プログラム 1

協賛 NPO法人ドットジェイピー

ICAジャパンでは、現在、国内のインターン生の受け入れのみ行なっています。2022年2月～3月に、NPO法人ドットジェイピーからインターン生6名を東京事務所に受け入れて教務とNGOの仕組みを学びました。最初はICAセミナーの紹介から始めました。



# インターンシップ プログラム2

## ◆ホームページの作成



ホームページの作成方法を現役のホームページの先生でもある近藤澄子さんより習いました。日頃から大学でパソコンを多用している学生は中級レベルをクリアしました。

## ◆バーチャル・マーケットの制作



ICAのバーチャル・スペース・マーケットを構築。2022年夏のオンライン国際交流イベントに向けて各自がブースを受け持って、世界の食事、教育、伝統文化、建築、スポーツ、美術、音楽など自分の興味のある分野を選んで出展ブースを作りました。

# ICA インターンシッププログラム3 国会見学ツアー



4月初旬に、インターン生、ICAスタッフ、ボランティアの合計8名で、国会議事堂見学と青柳陽一郎衆議院議員の国会事務所を訪ねるツアーを企画しました。議員食堂で昼食を取った後、少しの時間でしたが本会議を傍聴しました。



# ウクライナ応援 アートイベント

戦争に反対

地上に平和と

愛の種を蒔こう



2022年2月末、ロシアのウクライナ侵攻により現地の悲惨な状況がニュースで報道され、学生たちで何か支援が出来ないかと考え、企画です。平和を願うアートポスターを作成し、ICAのホームページに載せました。僅かですが寄付金も集まり、これは引き続きウクライナの別の支援活動の中に組み込んでいきます。

## 「ポストコロナ時代に向けた環境NGO/NPO活動の展望」

開催日：2022年 3月 24日（木）14：00～16：00



環境NGO・NPOが脱炭素社会形成・気候変動対策といった喫緊の課題に対応しながら、ポストコロナ時代を見据えて組織運営や活動の実施方法のスムーズな転換につなげていくためのシンポジウムが実施されました。

挨拶：（独）環境再生保全機構 地球環境基金部 部長 秋保 裕幸氏  
基調講演： 環境省大臣官房総合政策課 民間活動支援室 企画官の浅原 堅祐氏の後、オンライン形式（Zoom ウェビナー）で発表しました。

（特活） ICA文化事業協会 理事長 佐藤 静代  
（特活） SET 理事長 三井 俊介 氏

終了後、85名の参加者に勇気と共感をもたらし、そして自分たちの活動へのヒントを与えてくれる内容であったとのコメントもいただきました。

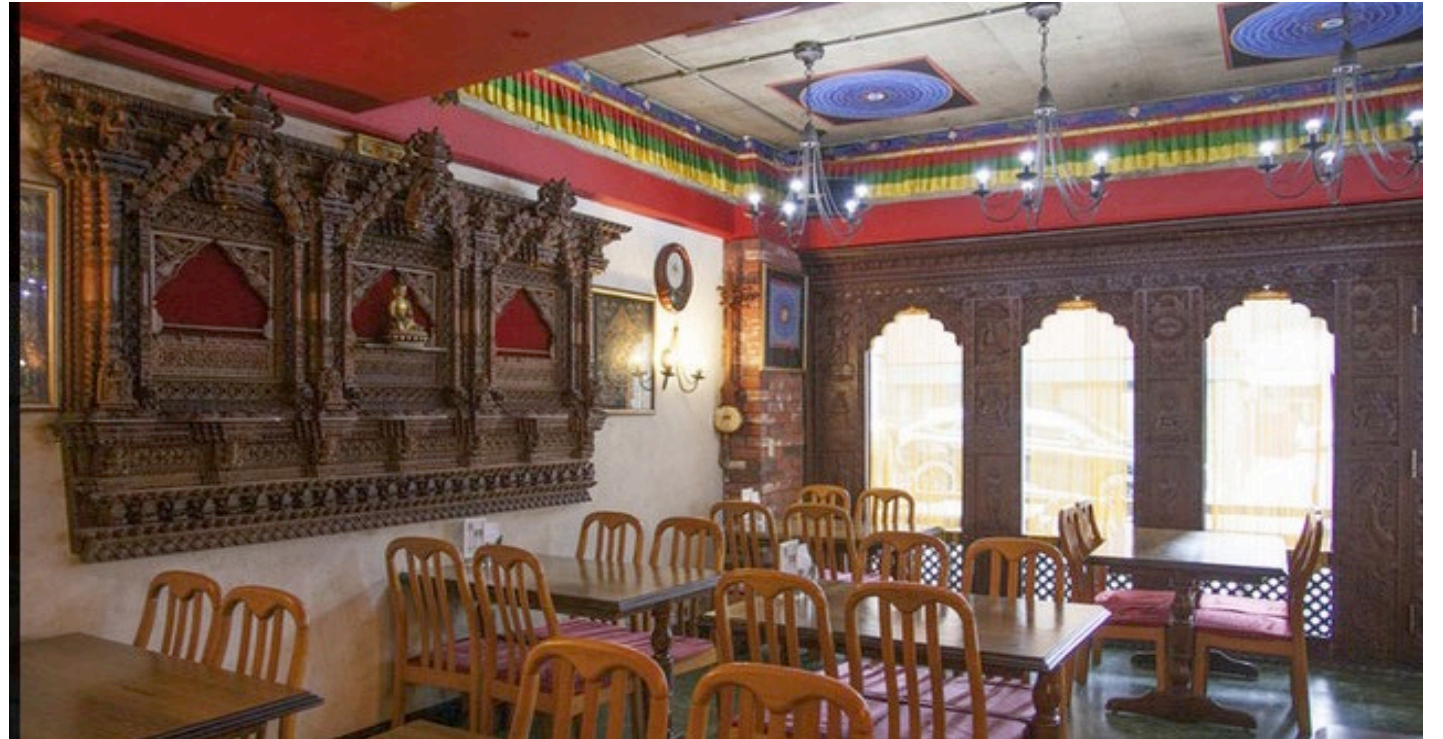


## 福島県南相馬市から感謝状の授与

- ICAジャパンは2011年から10年間、東日本大震災の災害復興活動を行なってきました。被災者の心の癒しを目的に物資配布、園芸活動などをしてきてきました。この度2021年11月3日、福島県南相馬市から感謝状が贈呈されました。これまでの活動の中でも特に「南相馬市の市民に救いの手を差し伸べ、復旧復興のために貢献した」との書かれてあります。
- 南相馬市では11年経った今も復旧活動は続けられ、「新しいことづくり」を着実に進められておられるのは誠に嬉しい限りです。感謝状ありがとうございました。

# ネパールレストラン・レッサムフィリリ高輪店(本店)

## ICA寄付金ブース開設



2022年5月、4月より1回開催される泉岳寺近くの老舗ネパールレストランのマルシェでICAジャパンのネパール事業の活動の動画をスマートフォンで流して紹介していただき、チャリティ募金のブースを設置して下さいました。募金は4月と5月で4千円貯まりました。

# 公益社団法人日本和紙絵画芸術協会から寄付金



日本和紙絵画芸術協会は、1987年に日本和紙芸術家協会として設立。和紙絵画芸術に係わる展覧会、講習会の開催、国際交流の実施等を行うとともに、日本の文化の発展、向上に寄与しています。

ICAには、ガテマラ、ベトナム、ネパール他に幼稚園建設のご支援をいただきました。2021年12月11日、ネパールへの活動資金としてICAが代理として327,500円を受け取りました。写真は課題で製作されたネパールの民族衣装を着る研修生。後ろには制作された乳児用の服が見えます。

# 事業概要

## (1) 海外支援事業

### ①インド共和国ビハール州での環境教育整備と植林（一緑運動）事業（第3期）

事業内容：植林活動、環境センター修復、環境保全研修、住民会議

実施期間：2021年4月～2022年3月

従事者数：日本側2名、インド側3名

事業地：ビハール州マデプラ郡の6村

受益者数：子供を含む住民、約1,000名

支援期間：経団連自然保護基金

助成金総額：1,810,000円

## (2) 国内活動

### ①インターンシップ活動

HP作成の習得、Webサイト構築、ファシリテーション活動など。



認定特定非営利活動法人ICA文化事業協会

東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F

TEL: 03-3484-5092 FAX: 03-3484-1909

E-mail: [staff@icajapan.org](mailto:staff@icajapan.org) URL: <https://www.icajapan.org>

～当団体への寄付・会費は寄付金控除を受けることができます～

---